



電気刺激療法(ECT)とは

-  電気刺激療法とは、脳を電氣的に刺激することによって脳内にけいれん発作を引き起こし、ある種の精神や情緒の状態を治療する方法です。
-  全身麻酔で完全に眠っている間に精神科医、麻酔科医、看護師により安全に実施されます。



適応となる疾患、状態

うつ病、躁うつ病、統合失調症が主に適応となる疾患で、次のような状態が適応であると考えられています。

- ▶ 迅速に症状の改善が求められる場合
(自殺の危険性が高い、栄養状態が悪いなど)
- ▶ 薬の効果が乏しい
- ▶ 副作用が強くなるため薬の治療が難しい
- ▶ 以前に電気刺激療法の効果があった
- ▶ 高齢者や妊婦で他の治療方法よりも高い安全性が必要

治療の手順

- 1.治療の数日前に入院し、必要な検査や麻酔科受診を行います。
- 2.治療日は麻酔中の誤嚥を防止するため前日の深夜より絶食となります。
- 3.治療が始まる前に点滴を開始し、通電用の電極や脳波、心電図、血圧などのモニターを装着します。治療中は継続してモニターを行います。
- 4.準備が整ったら、眠るための麻酔薬や体のけいれんを予防するための筋弛緩薬を静脈内に投与します。
- 5.頭部に短時間(数秒)の電気刺激を行うと、脳内に発作が起き、数十秒～約1分続きます。数分間のうちに麻酔薬の効果がきれると目が覚めます。
- 6.病室に戻り、1～2時間心電図、血圧などをモニターし、スタッフが状態を観察します。

副作用と合併症

- 治療後覚醒するときに混乱したり、もうろう状態となることがありますが、通常約1時間以内に改善します。
- 頭痛、発熱が一時的に起こることがあります。
- 最近の出来事についての記憶が思いだしにくかったり、日付、知人の名前、住所などを忘れていたりすることがあります。この記憶障害は通常数日から数週でなくなります。知能(IQ)や記憶力への長期的な影響はこれまで報告されていません。
- 死亡事故は極めてまれで、統計によって異なりますが、1~4万回に1回と報告されています。

治療回数と効果

- 通常、治療は週2～3回、計6～12回行われますが、病気の状態によって変更する場合があります。
- 多くの患者さんではECT治療により十分な治療効果が得られますが、特効的な効果が約束されているわけではありません。他の医学的治療でもいえることですが、短期間に回復する人もいれば、少しずつ回復する人もいますし、全く効果がみられない人もいないわけではありません。
- 回復が完全であっても、症状が再燃することもあります。このような再燃を防ぐため薬物療法あるいは維持ECTが行われることもあります。